

お地藏さんプロジェクト

～勇気と絆とやすらぎを～



お地藏さんプロジェクト広報誌
2016年 4月1日発行

第8号

お地藏さんプロジェクト広報誌

現地活動報告

宮城県 岩沼市 建立に向けて

前号で報告いたしました岩沼市建立ですが、いよいよ建立に向けて本格的な話し合いが進んでおりましてご報告いたします。
5月28日(土)に「岩沼市千年希望の丘植樹祭2016」が開催されます、10万本の木を1万人で植樹しようとする企画で、私たちお地藏さんプロジェクトも参加し、植樹祭の手伝いをしてまいります。
この植樹祭開催場所が岩沼市長谷釜地区であり、この場所にお地藏さんの建立がほぼ決定いたしました。日取りは6月から8月の間で調整中です。



お地藏さん制作中(京都造形芸術大学)

岩沼市建立
建立場所：岩沼市長谷釜地区
(千年希望の丘 10号丘近辺)
建立日：平成28年6月から8月
また現在七ヶ浜町へ訪問活動を行っており、建立に向けて話し合っています。
(宮城担当 柴田一夫)

岩手県 岩泉町 建立に向けて

昨年岩手県岩泉町小本地区を中心に訪問してまいりました。建立に至るのは地元の方々のご理解とさまざまな条件が整ってこそです。
いまだ建立までには至っておりませんが、あきらめずに取り組んでいきます。百年後、千年後までも穏やかに私たちを見守ってくださるであろうその姿を想像していただければ、地元の多くの皆さまのご理解が深まることと思います。よろしくお願いたします。
(岩手・青森担当 木村尚徳)

山形県 募金箱を設置しています



山形市内を中心に募金箱を設置しています。企業の窓口、お花屋、お寿司屋、居酒屋、カフェ、ラーメン屋等々、みなさまからのご協力を得て置かせていただいております。お見かけの際は何卒よろしくお願いたします。

「歳月」

平成28年3月11日、あの日から5年を迎える今日、宮城県石巻市の南浜に立った。お地藏さんを最初に建立した地になる。「大丈夫か? 立っていらるか?」、「えっ何で?」、「靈感

の強い人は立ちくらみがすると話す人もいるんだ。そんな会話がなされる程の津波被害を受け、多くの方が亡くなった。点々と残る家々の基礎コンクリートだけがかつての街並みを思い起こさせる。しかし、人々の暮らしが無くなるとすぐさま雑草が生い茂り、穂先を風に揺らすよ



慰霊のキャンドルに囲まれたお地藏さん(3月11日 石巻市)

うに無慈悲な自然の力を感じさせるのは何処も同じだ。人々の暮らした日常にこの自然の力と拮抗するものといえようが、所詮人工力、許される範囲に留めておくべきなのだろう。
かさ上げ工事が進み、お地藏さんも日和山表参道登り口付近に移設された。今年の慰霊祭は「まねきコミュニティ」が主催し、日頃お地藏さんのお世話をする地元実行委員会の阿部さんたちも合流する形で行われた。復興に区切りはなく、いわば「いっぶく」。歯をくいしばって頑張っているみんなに暖かい日差しとやさしい海風が吹き、今日は自然もやさしい。この心地よさは天から戻ってきてくれたみんながそろったからかと思わせる。
ふるまいの、熱い「はっと汁」にハフハフしながら箸をすすめ皆笑顔。この集いは地元の方々だけでは足りない。近くで復興住宅建設に携わる大手ゼネコン関係者も来訪して同じ「はっと汁」。まさに顔が見える工事とでも言いましょうか、この地区に集うみんなが、それぞれできる事をして安全に復興を進めようという同じ釜の飯状態です。元々は老舗の味噌・醤油屋さんがあった場所というこの地

で「まずは水流してけさ」と役所さん頼んだんだ」という震災直後の話や地区の生い立ちの話に盛り上がりました。鎮魂の風船を飛ばし、大きく作ったケルンに次々とキャンドルの灯りが点る頃、日は陰って冷たい海風が吹き出し鎮魂の「いっぶく」の終わりを促しました。
この様子をじっと見つめてくれていたお地藏さん。辛さの中にも、この機に新しい町をつくり、次の時代を担う子供たちに渡そうとする皆の思いを語り伝えてくれるに違いありません。問うものすべてへの心の語りべとして。
(文・広報担当 小田嶋豊)



日和山より復興進む海岸線を望む

寄付金のお願い

銀行口座 楽天銀行 第一営業支店 普通預金 7152474
口座名 特定非営利活動法人 被災地に届けたいお地藏さんプロジェクト
郵便振替 口座番号 02250-0-118523
口座名義 被災地に届けたいお地藏さんプロジェクト

編集後記

震災から5年の月日が流れた今年3月11日、お地藏さん建立の第一号となった宮城県岩手県岩泉町を訪れました。かさ上げ工事のために移設されたお地藏さんと会うのは今回がはじめてでした。今まで日和山の方向を向いていたお地藏さんは、今度は山側から海を見つめるように安置されています。「まねきコミュニティ」の方々が主催した慰霊祭。冷たい海風が吹く寒い日でしたが、あつあつの焼き芋やはっと汁が体を温めてくれ、そこに集まった人たちの何気ない会話や笑顔が心の中を温めてくれました。心の復興を感じるひとときでした。

認定NPO法人
被災地に届けたい
「お地藏さん」プロジェクト

●発行人/題字：葦原正憲 ●編集：長岡高之・菊地宏幸・小田嶋豊
本部 〒990-0042 山形県山形市七日町3-3-5
TEL:0120-941-116 FAX:0120-941-117

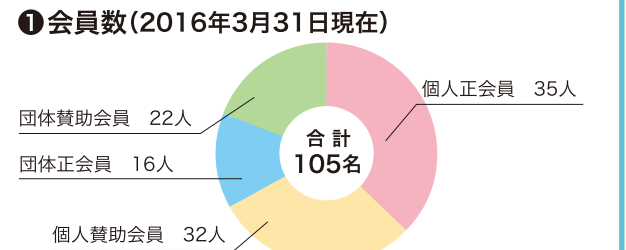
東日本大震災発生から早五年が経過しました。
被災された地域のみなさんが、幸せを願いながら一生懸命に頑張っている姿にふれあうことに、私たちは何が出来たのだろうか、深く思わずにはいられないです。いっばくになりなさい。
日本の心の文化を歴史的にひも解いてみると、災害や大きい事故があると、地域のつながりが人の努力の限界に直面し、それを乗り越える思いをお地藏さんに託し、村のほぐれのお地藏さんを建立し、思いを託した史実があります。それが今では地域



理事長/葦原 正憲

コミュニティの心よりどころとなっています。地域の方々が自然に集まり、お地藏さんを守っている人々の真心をさらに後世の人に伝えることが、今生きている人々の役割と信じて、お地藏さん建立にみんなが努力を注ぎたいと思っています。一緒に頑張りましょう。

会員数と寄付金のご報告



②寄付総額(2016年3月31日現在)
¥23,482,727

東日本大震災から5年

～宮城県石巻市・名取市から～



■名取市

震災から5年目をむかえた3月11日、名取市閑上地区はたくさんの方々にぎわいました。お地蔵さんのかたわら、白いテントのお茶のみ場では、大貫さんをはじめ「閑上寄り添いお地蔵さん保存会」の皆さんが温かいコーヒーと笑顔で迎えてくれました。今年のお茶のみ場は、毎週日曜のオープンで、特製カレーライスを準備してくれています。

14時46分。海からの風が強く肌寒い中で、5年前のその日その時のことをおもいながら、地元の方々と、参集したゆかりある方々とともに、お地蔵さんにむかいながら黙祷を捧げさせていただきました。

お地蔵さんの周りには震災を記録する多くのものがあります。名取市で建立した大地から伸びる



忘れてはならない3月11日。それぞれの思いを胸に



祈りのキャンドルが飾られたケルン

「芽」をモチーフにした慰霊碑。閑上中学の14名の生徒を悼む慰霊碑。流された富主姫神社と湊神社が再建され祀られる日和山。名取市では、この閑上の地を「震災メモリアル公園」とする基本計画を現在策定しているそうです。そのため、閑上のお地蔵さんがこの場所で3月11日をむかえるのは今年が最後となりそうです。

計画中の震災メモリアル公園の中には、追悼と鎮魂の場として「祈りの広場」が設けられる予定であり、お地蔵さんもこの公園内に移すことができなにか、お地蔵さん保存会の大貫さんも名取市へ依頼しているということですので、お地蔵さんプロジェクトでもバックアップしていきたいと思えます。

(事務局長 米本泰)



14時46分、一斉に黙とう



県外から訪れる方も多く見られました



名取市閑上のお茶のみ場

■石巻市

3月11日、まねきコミュニティが主催する慰霊祭が日和山の登り口付近で行われました。当プロジェクトが第一号として建立した石巻市門脇地区のお地蔵さんは、かさ上げ工事のためにこの地に移されています。お地蔵さんの周りには色とりどりのきれいな花が供えられ、地元の方たちに大事にされていました。

14時46分、黙とう。多くの犠牲者のご冥福を祈りました。

(事務局 長岡高之)



献花してお祈り(名取市)



「ボクもおいのりしよう」



あつあつのはっと汁



一つひとつに祈りをこめて



プレハブ小屋に描かれた希望の絵



まねきコミュニティのみなさん。お地蔵さんを囲んで